

## 自分本位の行動が多い子どもとの関わり

### 1 はじめに

近年、「子どもが変わってきた」という声を耳にすることが多くなりました。いろいろな場面でそう感じます。

例えば、「争い」が起きたときの対処の仕方を考えてみましょう。以前は、当事者双方が何とか解決しようとしていました。子どもなりの経験や知恵を生かして、手を出し合うことなく、折り合いをつけておさめる場面がよく見られました。しかし、最近では、「争いの解決方法」として手を出す、我慢をしないで思いのままに振る舞う、自分の行動を自分でも止められない、暴力に訴える子どもが増えていると思われています。

### 2 自分のしたいことを押し通そうとする

Aさんは、したい・したくない、快・不快、満足・不満足が行動を決める大きな要素です。相手の立場に立ち、相手の気持ちを汲み取ることが苦手です。回りの人と自分の気持ちとを勘案して行動の仕方を決めることがうまくできません。自分がしたいことを止められたり、待たされたりしたら、大声で威嚇します。それでも駄目な場合は、手を出してでも押し通してやろうとします。声もかけず、いきなり手を出すこともあります。一方では、仲間に「いろいろできる子だ!」と思われたいという気持ちを強く持っています。

#### ◇ 事例紹介

自分のしたいことがあると、自分自身のコントロールがとても難しくなります。また、自分の身勝手や非を指摘された時は、粗野な言葉を口にしたり、手を出したりして相手を攻撃し、忠告を受け付けません。

#### <例1 理科の教師実験を見るとき>

「前で実験を見るよ。」と先生。Aさんの席は後方だったので、実験機の最前列になれませんでした。Aさんは「どけー」と言い、人を押しのけて前に出ようとしています。

前に座っている友達は「何するの!」と言い、前に出してくれません。「うるせえ!」と、力いっぱい押します。ドンと、痛みを強く感じるほどの力です。近くにいた子どもも勢いで押されます。

「押したら危ない。自分だけ前へ出ようとするな。自分の席で見てよ。」「何やと!」と注意した相手の頭部を後ろから殴りました。

#### <例2 ドッジボールのとき>

「仲間に入れて。」「勝手にルールを変えたり、ズルするで嫌や。」「そんなことしいへんでいれて。」「ほんなら、まあいいわ」

Aさんがボールに当たり、アウトになりました。「膝から下はセーフ」「2回当たるまでは外野なし。」と、勝手なことを言い始めました。

「ルール守れよ」、「ルールそう決まったんやもん」「勝手なルールを作るな!」「当たったで、外野いけ。」みんなが言いました。

「絶対嫌だもんね。」「当たったで外野へいけ。」また言われました。カッとなったAさんは、近くの子に思いっきりボールをぶつけ、走り去りました。

遊びのときや学級活動のとき、自分の都合や要求を押しつけます。叶わないときは、脅し文句を言ったり手を出したりします。このようなことを繰り返すため、次第に遊びに入れてもらえなくなっています。その

ことが少しずつ分かり、腰を低くしてやっと入れてもらったのに、また、わがまま・ルール変更を言い立ててしまい、トラブルを起こして終わることがよくあります。

食べ物に対しては、強い執着心があります。事例以外の種類の食べ物はもちろん、家庭科の調理実習でも同様の様子を見せます。皆で材料を持ち寄ったので、同じ量になるように分けようと言っても、「僕の醤油がかかっているのだから全部僕のものだ」などと言って、分けることができません。（後で詳しく述べますが、家庭での暮らしぶりに深く関わっているようです。）

### <例3 給食の時間>

大好きなカワハギのフライが出ました。自分で皿いっぱい盛りつけました。

「Aさんだけ、そんなに取ったらみんなの分が減るので、戻してください」と給食当番。

「これ好きやもん」「勝手なこと、しんどいて」

皿を取り上げようとします。

「これ、僕のものや」と言い、皿のカワハギに唾を吐きかけました。

その後、喜々として食べました。

### <例4 算数の学習>

先生が黒板に字を書いているとき、廊下へ出ていきます。

「Aさんが出ていくよ。」と回りの子どもが追いかけて、ましたが、間に合いません。

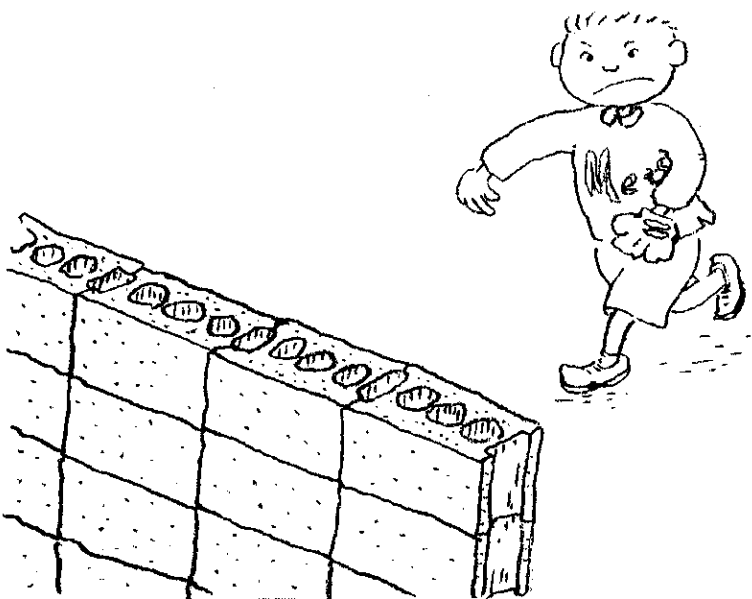
行き先は、多分、図書館です。連れ戻しに行きます。「戻って算数やるよ」「つまらんで嫌や」「やらんと分からなくなるよ」「あんなの難しいから戻らなくてもいい」「できることやってみよう」「ここで社会の勉強するで」と言い、歴史マンガを読み続けます。

子どもは、フリーの先生に後を託してその場は引き上げました。

授業中に教室から出ていくのは、ここ何年間続いていることです。「授業に疲れる」、「つまらん」という理由で、教室から出ていきます。小さい頃は言葉をかけると戻りました。やがて誰かに手を引いてもらわないと戻らなくなり、今は、手を強く引かれて戻るといった状態になりました。

教室に戻すことを第一に考えていますが、個別に指導ができる教室に行くこともあります。

以上のようなことを繰り返すため、遊びの場以外でも仲間に入れてもらえなかったり、生活班作りでどの班からも敬遠されるようになってしまいました。多くの仲間から受け入れられ難いのが、今までの状況でした。しかし、Aさん自身は、こうした行動をとる一方で、クラスの仲間と一緒に活動したり、仲間と関わって暮らしたいと思っていました。



### 3 どうしてこのような行動をとるのかを考える

A さんに関わる職員が集まり、A さんの言動について話し合いをしました。学校生活の様子、保護者との懇談などの情報を交流し、A さんがそうせざるを得ない理由について考え、下の表のようにまとめました。

|   |                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 強い衝動性がある。                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「よい場所で見たい」「とにかく食べたい」という気持ちが強い。衝動に任せて行動してしまう。</li> <li>自分で「～したい」と思うと、それを実現するために、その場の状況を考えることなく行動してしまう。</li> <li>邪魔をされると、相手が悪いと思いこんでしまう。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                     |
| 2 | ストレスを強く持っている。                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>勉強がよく分からない。学年が上がるにつれて、ますます友達との差が開いていく。学年が上がるごとに不安感が強まっている。</li> <li>仲間が、自分のことを排除しようとしているのではないかと不安を抱いている。</li> <li>家庭での暮らしが不安定である。家庭生活の影響を受けやすく、気持ちを大きく揺さぶられている。(後述)</li> </ul>                                                                                                                                                                                        |
| 3 | 存在感を示したいのだが、なかなか認められない。                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分がその場のリーダーになりたい。そのために、遊びのルールを変更したり、わがままを言ったりする。しかし、身勝手な内容のため受け入れられない。</li> <li>授業中、本当は発表がしたい。分からなくても、「分かった」と言ってしまう。しかし、指名されても答えることができず、自分が困ってしまう。</li> <li>先生から頼み事をされたとき、素直に引き受けない。「校長先生と約束が…。」「教頭先生に頼まれたことが…」など言い訳をしたり、渋ったりしてから、やっと引き受けることも多い。頼りにされていることをアピールしたい。</li> </ul>                                                                                        |
| 4 | 過ちを素直に認められない。                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>周囲の人には納得できないような理由付けをしてしまう。</li> <li>自分がしてしまった過ちを素直に認めることができず、自分の言い分にこだわり、最後まで言い張ってしまう。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 5 | 家庭(母親と)の暮らしの中に不安・不満があり、それを学校でいろいろなかたちで表してす。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児期に、母親と別れて暮らしたことがある。寂しく辛い思いをしたという記憶が残っている。(今は母親と暮らすことができるので嬉しい。)</li> <li>母親は帰宅しないことがあった。そういうときは、食事もなく途方に暮れてしまった。母親がいないときに、また母親と別れて暮らさなければならないのではないかと不安に襲われてしまう。</li> <li>母親のことを思い、学校から家に電話することがある。些細なことなどで理由をつくり、電話をして母親の在宅を確かめたりする。</li> <li>自分が悪い行為をすると、学校から母親に連絡が入る。そういう後で、母屋が自分に対して冷たくなる気がする。</li> <li>お金を渡されて、コンビニ弁当で食事を済ますことがある。食事の世話をきちんとしてもらえない。</li> </ul> |

### 4 具体的な指導方針を立てる

思い通りにならないと、A さんは手を出してしまいます。この行為は、結果として、A さんを益々不安にしたり孤立させたりします。A さんを追い込まないようにするために、次の三つの不安を取り除くことが必要です。

① 学習への不安、 ② 家庭への不安、 ③ 人間関係の不安

この不安を軽減していくための方法として、次のような指導に取り組みました。

## ◇ 個別指導を取り入れる(学習)

現在、高学年であるAさんは、算数では九九が何とか言える段階でした。

個別学習を進めていくうちに2ケタ×1ケタや3ケタ÷1ケタの計算ができるようになりました。始めのうちは「こんなもん分かん。やりたくない。」と言っていました。しかし、1時間目、2時間目と先生と一緒に進めていくうちに「こんなもの簡単だ」と言いながら取り組むようになりました。

分かるようになりたいという気持ちがありながら、分からない姿を仲間に見せたくないという気持ちを強くもっていました。個別指導では、自分一人だけなので、安心して「分からない」と言うことができました。また、普段は気が散りやすいAさんも、一対一の落ち着いた環境の中では集中することができました。

計算問題を解いていくうちに、分からなかったことが分かるようになるという楽しさを味わっていました。また、その成長を周囲の先生にほめてもらえるので、照れながらも喜んでいました。

最近、算数のドリル練習をして100点と書いてもらった紙を「校長先生に見せに行く」と喜んで、「お母さんに見せる」と喜んで家へ持ち帰ったりしています。

現在の学年の学習内容を個別指導で理解できれば、不安の解消も早いのでしょうか。しかし、現在のAさんの算数の力を考え、幾つか下の学年の内容を理解するところから始める方が望ましいと判断しました。できるようになったという実感を少しずつ持たせることが、不安軽減につながると考えています。

### 個別指導において留意したこと

- ・ 個別指導の時間を時間割に授業時間として必ず位置付け、フリー職員が指導する。
- ・ 本人が「これなら自分にもできるかもしれない」と思うような、適度抵抗の学習内容にする。
- ・ ドリル練習などでは、やっている途中で間違いを直させる。答え合わせのときは満点で終われるようにする。
- ・ 分かるようになったことを、職員が本人と一緒に喜ぶ。また、周囲の職員に一生懸命取り組んだこと、分かるようになったことを誉めてもらう。
- ・ 計画にこだわらず、その場の様子により、途中から図工の製作に切り替えたりなど、臨機応変に学習内容を変更していく。個別指導は楽しい時間にするのを第一にする。

※ 個別指導で、ある1時間を満足感を持って終わっても、次の時間の意欲的な取り組みには必ずしも結びつきません。それが、今の課題で方策を探っているところです。

## ◇ 母親への働きかけをする(家庭)

母親との二人暮らしで、母親が言動が大きな影響力を持っています。

Aさんの揺れる気持ちを分かってもらうために、学校から母親に働きかけをしました。母親は自分の生活で精一杯でした。学校からの働きかけが強すぎたこと、Aさんが起こすトラブルのことが多かったこともあり、母親は「もう、聞く耳持たぬ」という状態になってしまいました。

そこで、母親と何とか気持ちを通じ合うことを願い、担任や生徒指導担当との「交換日記」を申し入れました。お互いの（特に母親の）負担にならないように配慮しながら、交換日記を始めました。

## 交換日記の実行において留意したこと

- ・ お互いに、返事が書けなくて「交換」にならなくても構わないことにする。
- ・ 週何回などの回数を決めず書きたいときに書く。
- ・ Aさんの行動のよい面を書くことにする。
- ・ お願いは書くが、トラブルの連絡は書かない。(トラブルの連絡は、電話か直接会ってする)

返事がないときもありますが、文面から少しずつ母親の心を開いてもらっていることが伺われます。また、今まで以上に子どもに目が向くようになりました。子どもが登校する時刻には起きていたり、朝食を準備したりすることも増えてきました。忘れ物を届けに学校に来るということもありました。

勿論、母親は仕事でも精一杯なので、即効的な効果ばかりを期待してはいけません。交換日記を継続することで、母親の不安を少しでも和らげていきたいと考えています。子育てについて一緒に考える場の一つが交換日記なることを願っています。

### ◇ 安心できるクラスづくり(人間関係)

「何や、……のくせに」と相手の弱点を指摘したり、「どうせ、お前なんか……」など見下したり馬鹿にしたりするような言動があつては、安心して過ごすことはできません。そのような言動を、教師が見逃さずに取り上げ、子どもに投げかけます。この繰り返しで、一人一人を大切に作る学級づくりを推進することになります。

誰でも自分の弱点を言われれば、腹が立ちます。場合によっては、言い返してやろうかという気分にもなります。その場では気持ちを抑えても心に悔しさが残ります。そのような悲しい出来事が繰り返されれば、クラスの雰囲気は温かさがなくなっていくます。安心して暮らせなくなります。

特に、弱点を多く持ち、いろいろなトラブルの種を蒔き、友達からも様々な指摘を受けやすいAさんは、安心して暮らすことができなくなり、一層不安定になってしまいます。友達から言われることが誘因となり、さらに激しい行為に至ってしまうこともあります。学級づくりのためにも、Aさんのためにも、安心できるクラスづくりが重要になります。

### ◇ 役割を任せる(人間関係)

運動会の時、応援団員に立候補しました。クラスの友達は、Aさんは応援団員にふさわしくないという理由で反対しました。Aさんは、引き下がりません。話し合った結果、幾つかの条件を守ることができたならば応援団員として認めることになりました。

この話し合いは、Aさんを大切にしていました。クラスのこと、Aさん自身のことを考えて、それぞれが今よりも成長するためにはどうすればよいかを話し合ったのです。クラスの友達が、自分のことをクラスの一員として認めてくれていることを、Aさんは実感することになりました。

しかし、今まで気ままに過ごすことが多かったAさんが、大好きな休み時間を応援練習に充てることは大変なことでした。苦痛でもあり、さぼって遊んでしまったこともあります。そんなときには、

- ・ 自分が強く望んだ応援団員であり、クラスの友達みんなが認めてくれた重みがあること
- ・ 仲間の信頼を深められるチャンスであること
- ・ 練習して伝えないと、クラスの子が応援の仕方が分からなくなり困ること

などについて話し、練習への参加を強く促しました。ねばり強い働きかけが実り、Aさんは次第に応援練習に参加できるようになりました。Aさんにとっては、大進歩です。クラスの友達を前にして、大声で指示をしたり、自信をもってリードしたりする姿が見られるようになりました。

#### ◇ 自分のことを分かってもらえる先生(人間関係)

Aさんが思いを吐き出したり、落ち着いたりするまで話をさせました。トラブルが起きると、Aさん自身に非がある場合がよくあります。しかし、Aさんなりの理由や言い分を必ず持っています。その言い分や悔しさを受け止めることが必要です。自分の気持ちを分かってもらえる先生がいるという安心感が育まれることとなります。

分かってもらえる先生の存在は、相談相手を誕生させることにも結びつきます。また、いつもなら乱暴な言動が見られる状況であっても、我慢したり、そのままやり過ごすしたりすることにも結びつきます。教師からの「よく我慢したね、Aさん、すごいぞ」などの言葉がAさんのセルフコントロールの力を育てることとなります。

#### ◇ 毅然とした先生(人間関係)

手をあげるなどの暴力的な行為を起こした時、担任やその場で指導する先生が、毅然とした態度で指導することが、次の行為を踏みとどまらせる気持ちに結びつき、有効でした。Aさんにとって、毅然とした先生とは、大きな声を出したり怖い顔を見せて話す、いわゆる怖い先生ではありません。

- ・ 自分に都合のいいところだけで話を終わらせない
- ・ 嘘、ごまかしの部分を見逃さない
- ・ 脅し文句にひるむことなく、事実を確かめて双方の非をはっきりさせる
- ・ 非のあった部分について、きちんと被害者に謝らせる

事実を明らかにして、公正公平な態度で指導を行う先生が毅然とした先生なのです。

### 5 指導を振り返る

Aさんは徐々に変容しています。それをもたらしたのは、次のような取り組みです。

#### ① 担任の願いを核として、指導内容や具体的な指導方法を職員間で統一したこと

#### ② 担任を中心として、多くの職員が子どもに関わること

気にかけてくれている人の存在は、子どもの安心感のもとです。Aさんの場合は、教師以外にも、図書整理員、留守家庭児童会の指導員などの優しい女性に声をかけてもらったことが、心を安定につなかりました。

#### ③ タイムリーな働きかけを行うこと

Aさんは、分りたいという気持ちを持っていたので、個別指導を受け入れました。学習の効果だけでなく、個別の関わりがストレスの軽減になりました。

#### ④ 役割を持たせ、クラスの中に居場所を確保すること

Aさんは、クラスの友達と一緒に活動したいと思っていました。クラスで応援団員に選ばれ、Aさんなりに頑張りました。休み時間も練習したり、大声でリードする姿を見た友達は、Aさんを見直し、新しいイメージを持つことができました。友達から認められたことで、Aさんの息苦しさも薄れたようです。

#### ⑤ いけないことはいけないと繰り返し教えること

#### ◇ 「ぼくの体は運動会のことですらでいっぱい眠れなかった。」

運動会前日から空模様が思わしくなく、グラウンドの状況が不良でした。運動会の開催を心配していたAさんは、早朝一番乗りで登校し、職員やPTA会員と一緒にグラウンド整備を行いました。子どものよさを信じて、これからも彼を伸ばしていきたいと思えます。